

## 令和2年度 難波中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 1-2 「中学生チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 1 中学生チャレンジテスト・中学生チャレンジテストplus

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
1 年	学校	58	47.4	51.6	50.4	56.0	51.5	17.9	5.9	7.4	3.3	6.1
	大阪市	—	55.1	56.2	53.3	65.6	62.7	12.4	4.5	8.0	3.0	3.1
1月13日	大阪府	—	56.1	—	54.0	—	63.8	12.7	—	8.7	—	3.3
2 年	学校	56	49.0	52.0	40.7	38.7	37.5	14.0	5.5	12.8	7.7	7.5
	大阪市	—	57.1	55.2	49.3	49.8	51.7	10.6	5.5	9.4	5.4	4.8
1月13日	大阪府	—	58.3	54.5	49.4	49.5	52.0	10.1	5.8	10.0	5.8	4.8

※ 1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は エネルギー 領域を選択

※ 2年生の社会は A 問題を選択

## 結果の概要

### 【1年生・2年生ともに】

- ・国語については、「書くこと」「読むこと」の力が弱く、記述式問題の解答に取り組めていない生徒が多くいた。
- ・社会・数学については、大阪府・大阪市と各領域の正答率が同じ傾向であった。2年生の数学が全体的に点数が低かった。
- ・理科については、「観察・実験の技能」の問題の正答率が低く、コロナ禍で実験をあまり行えていない現状が浮き彫りになった。
- ・英語については、すべての領域で正答率が低く、今後の丁寧な取組みが必要である。
- ・どの教科も記述式問題の正答率が低く、学習内容をしっかりと理解できていない、もしくは得た知識を活用できていないことがわかる。
- ・得点分布は低位層の割合がどの教科も高く、学力の2極化が起こっている。

## 成果と今後取り組むべき課題

- ・知識の習得を図りながら、興味・関心の向上、自尊感情の高揚、学力低位層の割合の低下をめざす。そのために、習熟度別少人数授業や学力補充学習、放課後学習会などを行い、ICT機器や1人1台端末を効果的に活用し、生徒が主体的に学びに向かう姿勢を作っていく。
- ・全学年においてリーディングスキルテストを実施し、全教科において、生徒のリーディングスキル向上のための授業の見直しを推進する。
- ・英語に関しては、学校全体で4技能のレベルアップを図り、単語テストや単元テスト、パフォーマンステスト、リスニングテストなどを積極的に行いながら、英語に触れることで関心・興味を高めていく授業展開を実施する。